

# The JEC Times

Special Edition Report on the Spring Program at Lincoln University, New Zealand!



NARA, 25 May 2017

2017年2月18日から3月17日の1ヶ月間、春休みを利用してニュージーランド南島中部クライストチャーチ市にあるリンカーン大学で短期海外研修を実施しました。本年度は、23名の学生が参加しました。クライストチャーチ市のカンタベリー日本人会主催“Canterbury Japan Day”（日本祭り）というイベントに出展する為、研修参加者は原則として、後期「異文化理解と平和構築」を履修します。“Canterbury Japan Day”は、クライストチャーチの復興と発展、および日本文化の紹介を目的としています。奈良女子大学は、英語で「日本のひなまつり」を主なテーマとしたブース出展と切り紙、四季をテーマとしたステージパフォーマンスを行いました。この特別号では、研修の魅力を研修者の声を通して紹介いたします。

研修の魅力 その1

## Canterbury JAPAN DAYに出展！



カンタベリージャパンデーでは奈良女子大学として大きく分けて4つのことをしました。展示による日本の紹介と体験型の文化・行事紹介、切り紙紹介・体験と日本らしい服装のファッションショーです。私はこの中の体験班のメンバーとして、雛人形の描かれたカードを作る、新聞紙でかぶとを折る、筆ペンを用いてプチ書道体験を行うということをしました。カンタベリージャパンデーには現地に住んでいる日本人や日本に興味のある外国人といった人と交流を行うことができました。



10月から自分がやりたいテーマを選びグループで準備してきた。私はステージ班で、屋内の小さなステージで音楽に合わせて切り紙を披露した。切り紙はハサミと紙があればできるものなので、自分たちのパフォーマンスが終わった後、観客の中から切り紙を試してみたい方を募って自由に切ってもらった。観客の方にも体験してもらうことで、自分たちでも簡単にできるものだと知ってもらうこと、自宅での発表を思い出し、「やってみよう」と少しでも感じてもらうことができた。発表と切り紙体験は好評でステージの後「かっこよかったよ！」と現地の方に褒めてもらい、嬉しかった。切り紙は江戸時代から行われている伝統的遊びなので、楽しく日本文化を知ってもらえたと思う。外国の地で大勢の前でものを発表するのは非常に緊張したが、何とか成し遂げたことで自信が付き良い経験だったと感じた。



カンタベリージャパンデーでは、前もって日本で出し物を決め、それに向けて準備をし、見事成功した。語学学習という面だけでなく、発表・プレゼン面でも自信がつくイベントだったと思う。また、日本では決して見ることのできない数のニュージーランド人に囲まれ、イベントをこなすという非常に意味のある体験ができたと思う。

現地の人に英語で日本の文化を紹介することは難しかったですが、質問に答えているうちにもっと日本の文化の良さを伝えたいという思いが強くなりました。私は今までに海外の文化について自発的に調べたことはありませんが、日本の文化については詳しく知ろうとしていなかったように思います。このイベントに参加したことで自国の文化の魅力に気づくことができ、日本の文化についてもっと詳しく知りたいと思うようになりました。



研修の魅力 その2

## 充実した語学プログラム & Lincoln大学の特別講義が開講される！

\*\*English for Academic and Professional Purposes

EAP<sup>\*\*</sup>の方々はとても親切で、分からない単語があると、ジェスチャーを交えて、どんな意味かを説明して下さったので、楽しくコミュニケーションを取ることができました。また、少人数のクラス編成なので、すぐにクラスメイトとも仲良くなることができました。授業中も分からないことがあれば、先生に質問ができる雰囲気があり、良い学習環境の中で学ぶことができました。

授業では生徒が積極的に発言をしていて、初めて授業に参加した時は驚きました。日本では授業中に発言する時は挙手をし、先生に指名されるのを待ってから発言しますが、現地の授業では先生の問いかけに対して即座に生徒が意見を言います。はじめは戸惑いましたが、次第に自分も授業で意見を言えるようになり、生徒の積極性を高めるにはこの方がいいのではないかと思います。

IELTSのWriting試験を前提としたWritingの授業では、250語のエッセイや150語で折れ線グラフから、読み取れることを書くということをしました。文章構成の作り方を学ぶことから始まり、分かりやすい文を書く方法を学びました。今まで250語ほどの英文を書いた経験はほとんどなく、はじめどうやってそんなに書けばよいのだろうかと思いましたが、本文を利点と欠点の2つのパートに分けて書くことですっきりまとまった文章を書くことができることを学びました。先生との直接の会話を通じ、どこが間違っていてどう直したらよいのかを知り、理解へとつなげることができたように思います。

週に一回、Lincoln大学の講師による特別レクチャーがあり、そのレクチャーではニュージーランドの先住民、マオリについて学んだり、ニュージーランドの観光産業について学んだりもしました。



授業では週ごとに全体のテーマが定められ、それに沿った内容で授業が展開されました。印象的だったのが、スピーキングの時間に環境問題について話し合っていたところ、中国人のクラスメイト達が積極的に発言していた姿でした。一方日本人の学生は、趣旨はなんとなくわかるものの、自分の英語に自信がなく、なかなか話すことができませんでした。日本人は英語ができないというを身をもって体験し、悔しさを覚えました。それから、授業内で間違ってもいいからとにかく話そうと気持ちを切り替え、下手な英語でも積極的に話すようにしました。このように、異なる国籍の同世代のクラスメイトに刺激を受け、わたしのつたない英語でも耳を傾けてくれる先生方の下、様々なテーマについて意見を交換したこの授業だからこそ、自分を変えるきっかけがつかめたのだと思っています。

授業では各クラスに適したエッセイ課題やリサーチ課題などが出され、それによって英語能力の育成がなされた。私のクラスの課題は「クライストチャーチと日本の生活や地理的状态における違い」のエッセイ課題や「スターバックスの難民雇用についての議論」のリサーチ課題などであり、自身の日常知にかかわる近い話題から世界的な話題まで幅広いものであった。英語だけではなく世界情勢などにも興味を持つきっかけとなったのではないかなと思う。

最も大変だったのはリサーチという授業で、実際に英語で書かれた資料を読み込み自分でパラフレーズし、何度かの添削を受けた後プレゼンをするというものだ。どれも日本では学習してこなかった領域で、今までは英語をどうにかするという英語が目的だったが、今回は英語を通して別のことを伝えるという英語を手段としたものだったので、英語をより実践的に活用できる訓練ができた。そしてもちろんリスニングカもついた。

リンカーン大学に辞書を使うのが嫌いな先生がいて、その先生が単語の意味を英語で説明してくださった。そのため、その英単語が頭に残りやすく授業のおかげでボキャブラリーが増えた。はじめは聞き取りができなくて、何を言っているのか分からなくて何度も聞き返していた。しかし、時間が経つにつれ耳が慣れていったのか聞こえるようになっていた。



研修の魅力 その3

## ホームステイ体験&ニュージーランド文化に触れる！

**ホ**ストファミリーと様々なトピックに関する会話をする  
ことが出来たのが非常に有意義だった。今日一日学校で何  
を学んだのか、どこに行ってきたのか、といった日常的な  
会話はもちろんのこと、現在の日本やニュージーランドの  
直面する社会問題（後期高齢化社会への懸念や、過労死問  
題、同性婚・夫婦別姓問題）や日本の宗教観などについて  
深く話せたことがとても楽しかった。ホストファミリーが  
無宗教だったというのも関係していると思うが、神道の考  
え方や仏教における輪廻転生の概念を非常に興味深い、  
もっと知りたい、と聞いてくれたのが非常に嬉しかった。  
私もまた、ニュージーランドの文化や考え方を、ホスト  
ファミリーとの会話を通じてたくさん学んだ。自国のこと  
をよく知ることが異文化交流においては大事だ、とよく聞  
くが全くもってその通りだと感じた。



**私**のホストマザーは家事をしっかりする人だった。日曜  
以外には毎日夕飯を作ってくれたし、広い家はいつもきれい  
に保たれていた。庭には日本庭園風の場所や家庭菜園、バ  
ラ園があったりして、家ででの生活を快適にしようと工夫し  
ているのを感じた。特にすごいと思ったのは、毎週火曜日は  
キッチン掃除の日、水曜日は家全体の掃除の日、木曜日は  
ベッドのシーツ洗濯の日、という風に一週間単位で掃除  
の計画を立てていたことだ。私は今まで汚れたらなんとなく  
掃除する、というふうだったのでこのやり方はぜひ見習  
いたいと思った。

ニュージーランドに行って一番驚いたことは、家族の在  
り方です。向こうでは、家族とはいっしょに食卓を囲み、  
話しながら夕食をとるのが鉄則みたいで、帰ってきたらま  
ず「今日はどんな日だった？」みたいなことを聞かれました。  
私の家での家族との過ごし方と全く異なり、すごく戸  
惑いました。また、次に驚いたことは周りの人たちのフレ  
ンドリーさです。お店の人は、つたない英語にも嫌な顔せ  
ず「どこから来たの？」「味はおいしい？」と話しかけて  
くれたり、人に道を譲ったら「Thank you」と言ってく  
れ、そういったコミュニケーションに暖かい気持ちになり  
ました。日本に帰ってもこういった相手を思ったコミュニ  
ケーションを大切にしたいと思います。

ニュージーランドの方はとても心が広く、フレンドリー  
でした。私のホストファミリーはある日、たまたま道です  
れ違った、アイスを食べている人に、そのアイス美味し  
い？どこで買ったの？といきなり話しかけたときは驚きま  
したが、相手も丁寧に返答していて、あとから聞くとこの  
ような会話はニュージーランドではごく普通のことだとい  
うことで、日本にはない良い点だなと思いました。

**人**の優しさに触れる経験をたくさんした。一番大  
変だったのはバスでの登下校で、特に初日は自分が  
何もわからない状態だった。どの場所でも乗り換える  
のかわからず、運転手の方に尋ねたところ、わざわざ  
バスを降りて、私が納得した表情をするまで何度  
も説明してくださった。その後なんとか正しいバス  
には乗ったものの、次はどこで降りたらいいか分か  
らないという問題が浮上した。そのため自分が乗車  
したバスの運転手に自分の家を記した地図を見せて  
尋ねると、その方は乗客全員に向かってこの子が  
降りるところ教えてあげてという呼びかけをした。  
それから、バスの乗客のみんなが、どこで降りる  
べきか話し合ってくださり、正しいところで降ろし  
てくださった。自分のことでバスの中のみんなが、  
手を貸してくれたこの光景は忘れられないものにな  
った。

ニュージーランド人の人々と関わることで、彼ら  
の考え方を真似しようと思いました。そう感じさせ  
てくれた出来事が二つあります。一つは日本語を学  
んでいるニュージーランド人と話した時でした。何  
故日本語を学んでいるのかと聞くと「好きだから」  
という答えばかりでした。日本では好きだから学ぶ  
というより就職に結びつくから学ぶ方が多いと思  
います。二つ目はホストマザーが何故ダンスを始めた  
のか聞いたときです。マザーは夫が亡くなり時間が  
余るので運動をしようと思って始めたと答えまし  
た。ニュージーランドでは日本と違い歳だから今更  
始めるなんて億劫だという考えはなく、やろうと  
思ったから始めただけという考え方が多く見られま  
した。その考え方に凄く共感できました。今までの  
私は実行に移さず理想を述べているだけだったと自  
身を振り返り、今これから何がしたいのか、深く考  
えるようになりました。



## 研修を終えて～変化～自分の将来への道が見える！

今回この研修に参加し、意識が変わった。たくさんの人に出会ったことが大きい要因であると思う。文法の知識では負けていないはずだが、私よりはるかに上手に英語でコミュニケーションをとることができるクラスメイトたち、すでに留学生として自分の国を離れ、学部で忙しく勉強する同世代の日本人や中国人、さらに第二の人生として自分の好きなことを学ぶためにやってきた方々などと知り合ったことで、様々な生き方を知り、悔しさを感じ、**挑戦することの大切さを学んだ**。研修を通して長期留学に挑戦しようという気持ちが膨らみ、早速勉強を再開した。できるだけ頑張ってみよう。

このプログラムに参加する前までは大学を卒業して、日本の大学院に進学しようと思っていました。その頃の私には海外で進学や就職をするという考えはありませんでした。けれども今回1ヶ月間海外で過ごしてみて、日本以外の国で何かをすることは自分にとってとてもいい刺激になることがわかり、今後海外の大学院に進学したり、海外で就職したりすることにも興味が出てきました。**母国とは異なる国に行くと自分の先入観が崩れていき、新たな可能性が広がる**と思います。英語力を向上させるためには日本で英語を学ぶより、英語を公用語としている国で生活をする方が効率よく勉強できると今回の経験を通してわかりました。長期に渡って、海外に英語を学びに行ってみようとも思うようにもなりました。

私は大学在学中に交換留学制度を利用して長期の留学をしたいので、その前段階としてこの研修に参加しました。私は英語が苦手で、研修に参加する前は英語での授業についていけない不安でした。最初のクラス分けテストで、私は一番簡単なレベルのクラスになったので、やっぱりわたしは英語ができないんだなあとも最初少し落ち込みました。しかし1か月授業に参加して、ニュージーランドで生活したら、力がついていくのが実感できました。また、この1か月をやり切ったことで、**今まで持っていた英語への苦手意識がなくなりました**。長期留学するにはまだ力不足だけど、今からでも勉強したら確実に英語は上手になるとわかり、自信が持て「もっと英語でコミュニケーションをとりたい！もっと英語を勉強したい！絶対に留学行きたい！」と思うようになりました。ニュージーランド研修に参加したことで、今まで自分には遠い目標だった留学が、今では手が届く距離に近づいたように感じます。



私は、生物科学コースに所属し、元から環境保護に興味があったのですが、この留学で何らかの形で**環境保護に関わりたい**という思いが強まりました。それには、大きく2つの理由があります。一つ目は、ニュージーランドの美しい自然を見たからです。遠足で、テカポ湖・マウントクックに行ったのですが、汚されずきれいなままの広大な景色に息をのみました。また、大学の周りでも、日本では聞くことのできないような鳥の鳴き声が聞こえており、動物園では様々なニュージーランド固有の種を見ることが出来ました。これらの経験を通して、自然の景色や独自の種を守る素晴らしさを強く感じました。二つ目は、ホストが見せてくれた、大量絶滅に関するビデオが印象的で、動物の絶滅を食い止めたいという気持ちが生まれました。ホストファミリーとは絶滅した日本の固有の種についての話もしました。このような機会があったのも、自然を愛するニュージーランドだったからこそだと思います。

私は大学で建築を専攻しているので、今回ニュージーランドでたくさんの西洋建築物を見ることができ、とても勉強になった。例えば、バスルームは日本と違ってプライベートスペースの扱いなので寝室の近くにおくとか、教会は天の神様に届くように天井を高くするとか、授業で習ったことを実感することができた。今まで私は将来建築系の職業に就きたいと思っていたが、具体的にどんなことがしたいのかはあまり考えていなかった。でもニュージーランドに来て思ったのが、**将来いろんな国、地域をまわって建築物やランドスケープを調査したい**、ということだった。他の色々な国へ行って見て、観察し、本にまとめたりできたらどんなに楽しいだろうと思う。もっと建築を勉強したい。そう思わせてくれたニュージーランド研修だった。



奈良女子大学国際交流センターNewsletter 特別版  
2017年5月発行 奈良女子大学国際交流センター  
〒630-8506奈良市北魚屋東町

TEL:0742-20-3736 Email: iec@cc.nara-wu.ac.jp

\*\*平成28年度グローバル女性人材養成プログラム(ニュージーランド)は、日本学生支援機構「海外留学支援制度(短期派遣)」採択事業です。